8-1　学部等の理念・目的及び学部等の使命・目的・教育目標

Ａ群・大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性
Ａ群・大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性
Ｃ群・大学・学部等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況
Ｃ群・大学・学部等の理念・目的・教育目標の、社会との関わりの中での見直しの状況

青山学院大学経営学部は1966年に経済学部商学科が分離・独立して新たに設置され、2005年、創立40周年を祝った。この間に、昼間部及び第二部を合わせて約25,000名の有為な人材を世に送りだした。

なお、本報告書では、便宜上昼間部の経営学部については『昼間部』、夜間部の経営学部第二部については『第二部』という名称をそれぞれ使用することにする。『経営学部』及び『本学部』という表記については、昼間部と夜間部を合わせた学部全体をさす時に使用することとする。

青山学院大学経営学部の目的は、キリスト教主義に基づき、国際的な視野、すぐれた知性、創造的な感性、そして高い倫理観を持った学生を、ビジネス界をはじめとして世界中のさまざまな分野で活躍できる人材として送り出すことである。

そのために、変化する国際情勢や経済、企業経営の動向に早い段階から関心を持たせ、それらの動きを理解し分析するための基礎理論を着実に身につけさせる。

さらに、最新の研究成果に基づき、企業経営や実務に関する最先端の理論と技法を教授し、各界のリーダーやプロフェッショナルとして活躍するために不可欠となる専門知識や技能を身につけさせる。

地球を舞台にして活躍するために欠かすことのできない外国語とりわけ英語を縦横に使いこなせる能力、ビジネスに不可欠なコンピューターを十分に使いこなせる能力を身につけさせるとともに、文化の異なる人々とのコミュニケーションを円滑に行いうる能力を育成する。

隣人に対する愛、正義を実行する勇気、家族、友人、知人に対する思いやりを育み、教師、目上の人に対する尊敬の念を養い、日々自己の内面と向き合い、謙虚で高潔な人格を形成させる。

企業経営に関する先端的な理論や技法を教授するため、経営学部及び大学院経営学研究科を国際的に認知される先端的な経営学の研究拠点として確立することをめざす。

具体的な教育目標は以下の諸点である。

(1) 現在及び将来の企業経営について、国際的な視野から、理論と実態について深い理解を得られる教育を行う。
(2) 企業経営に必要な基本的技能や技術を習得できる教育を行う。
(3) 企業と社会との関連、環境や倫理について個々の学生が識見を高められる教育を行う。
(4) 高潔な人格をもち、隣人のみならず文化の異なる人々とも友好的な関係を結び、人類の福祉に貢献できる人材を育成する。
(5) 学生の個性を尊重し、もてる才能と可能性を十分に開花させることのできる環境を整え、学生の自立を支援する。

上記の理念･目的を実現するために教育の質を高める必要があり、できる限り大教室の授業を減らし、少人数クラスにおける双方向の授業を重視する。３・４年次のゼミナールを重視し、ゼミの履修率をできる限り高めるとともに、１・２年次生に対しても演習形式の授業を増やすよう努める。そのためには、専任教員１人あたりの学生数を適正な水準に改善することが緊急の課題となる。また、１・２

年生の導入教育において、専門教育の比重を高め、早い段階で将来のキャリアに対する自覚を持たせ、学習意欲の向上を図るようカリキュラムを工夫する。

本学経営学部の特色を明確にし、アイデンティティを高めるために、現在の１学科制から時代のニーズに合わせて複数学科に移行することを計画しており、この計画が実現すれば理念･目的の実現に向けてより効果的な教育が可能となるであろう。

なお、学部の理念・目的については、毎年作成される学部のパンフレットやホームページ等で周知している。